



総務省

Ministry of Internal Affairs  
and Communications

## 地域人材ネット

地域の担い手人材の発掘・育成を行う「地域づくり入門塾」

尾野寛明

( おのひろあき )

有限会社エコカレッジ 代表取締役



### ○ 登録者情報

所在地

島根県邑智郡川本町

## 略歴

2002年 大学在学中に専門書リサイクルプロジェクトを開始、有限会社エコカレッジ設立  
2006年 本社を丸ごと東京都から島根県に移転  
2006年 島根県隠岐諸島・海士町における都市農村交流実証実験「AMAワゴン」運行開始・企画運営兼運転手(～2008年)  
2010年 島根県江津市・ビジネスコンテスト「Go-Con」の企画運営スタート(2015年に第5回地域再生大賞受賞)  
2011年 一橋大学大学院 商学研究科 博士課程 単位取得退学  
2011年 島根県雲南市にて担い手育成事業「幸雲南塾」スタート(2018年に第8回地域再生大賞準大賞受賞)  
2012年 「日本を立て直す100人」(アエラ 2012年1月2・9日合併号)  
2017年 朝日新聞 be フロントランナー(8月5日)全面掲載「地域再生に奔走する”風の人”」  
2019年 島根リハビリテーション学院特任教員就任。制度に頼らない地域リハビリ拠点設置に向けて奔走中。  
2020年 いすみ鉄道と提携し、古本で赤字の3セク鉄道を支援する「い鉄ボックス」事業開始。

## 著書・論文等

『「無理しない」地域づくりの学校 「私」からはじまるコミュニティワーク』(竹端寛・尾野寛明 他、ミネルヴァ書房、2017年)  
『ローカルに生きる ソーシャルに働く 新しい仕事を創る若者たち』(松永桂子・尾野寛明著、農文協・シリーズ田園回帰5、2016年)

## ○ 地域の担い手人材の発掘・育成を行う「地域づくり入門塾」

### 取組の内容

少子高齢化が進む中、地域を支え合う「担い手」が減りつつあります。反面、これまでは主役と見なされてこなかった子育て世代や学生たちが小さな地域活動を始める動きが見られます。会社勤めの方が週末の余暇で活動することも増え、大きな可能性を秘めています。

ただ、こうした人々は、「地域で何かを始めたいが、つながりもないし、何から始めたらよいか分からない」といった漠然とした悩みを抱えていることが多いです。そんな人々を発掘し、地域に繋がりを持ってもらう場として、「地域づくり入門塾」を開催しています。講座は基本的に月1回、半年間で完結。約10名の固定メンバーで、自身の活動の「企画書」を作り上げてお互いに発表し合うという形式で進んでいきます。いわゆる「起業塾」とは違い、難易度はかなり低めです。自身のモヤモヤを言語化し、地域課題を整理して自分ならこうすると人前で的確に伝えるところまでを到達目標としています。

参加者の興味分野も教育、福祉、子育て、一次産業、アート、デザインなどバラバラ。こうした多様性を重視し、異分野を組み合わせる「A×B」の発想を後押しします。これまでなかった斬新な発想から、困難な地域課題解決に向けた新たな動きが生まれることを促しています。



講座の様子(兵庫県明石市の事例)

## 実績

2011年に島根県雲南市で「幸雲南塾」を開講。2014年頃から同様のモデルが各地に広がり始め、2018年現在、全国22ヶ所にて担い手育成講座を運営中です。東北では震災復興の担い手育成においても応用されています。

雲南市では10年かけて130名以上の若い担い手が発掘され、無理しない、新しい地域づくりが進んでいます。中間支援NPOが設立、空き店舗再生によるシェアオフィスが開業した他、訪問看護ステーションの発足など創業9件、家業の継承3件、新規雇用創出51名など、経済効果は2億8千万円と推計されています。住民と共に取り組む先進的な地域医療は共感を呼び、13名の医療従事者・医師も3名移住するなど、人が人を呼ぶまちづくりができつつあります。2018年には「地域再生大賞」準大賞を受賞しました。

プログラム修了後は8割が何らかの形で自身のプロジェクトを継続したり、他のプロジェクトに参画するなど継続性が高いのが特徴です。1期あたり10名程度しか塾生を募集しないため、非常にゆっくりではありますが、小さなチャレンジの輪が各地に広がっています。

## 工夫した点や苦労した点

担い手育成の必要性は叫ばれて久しいですが、育成と同じくらい「発掘」が重要です。良い講座運営ができて50点。受講生を募集できてようやく残りの50点です。地域で何かを始めたいと思うような潜在層は、広報などほとんど読んでいない人々です。潜在層を発掘するために常に試行錯誤を行っています。

そして、安易に創業件数を成果指標に据えず、担い手の輪の広がりを可視化しながら丁寧に成果を発信することが大事です。

## ひとことPR

東京と島根を毎週往復する生活をする「二地域居住」を10年以上実践してきました。定住しない生き方から「風の人」などとも呼ばれ関係人口論議のモデルになりました。

100の力を持つカリスマ頼みの地域づくりから、1の力を持った100名の担い手たちの緩やかな連帯が推し進める「無理しない地域づくり」へ。試行錯誤を続けています。

## ○ 参考

### 取組分野の分類

登録者の取組を12の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

1.地域資源を活用した地域経済循環	2.まちなか再生
○ 地場産品発掘・販路開拓	中心市街地活性化
6次産業化	○ 空地・空家・空きビル・空き店舗等対策
経営資源の引継(事業承継等)・起業支援	商店街活性化
地域中核企業等の支援	その他
その他	
3.生活機能の維持	4.環境保全・SDGs
○ 地域医療・福祉	分散型エネルギーシステム
地域交通	地球温暖化対策
○ 集落機能の確保	廃棄物・リサイクル対策
その他	その他
5.防災減災・危機管理	6.観光振興・交流
建築物耐震化・長寿命化	DMOとの連携
○ 地区防災計画	インバウンド対応
BCP	民泊・農泊
避難所運営	○ 地域おこし協力隊の推進
感染症対策	その他
その他	
7.関係人口の創出・拡大	8.移住・定住促進
滞在・活動の場づくり	起業・事業承継等支援
地域おこし協力隊の推進	○ 空地・空家対策
○ 地域と関係人口の協働	地域おこし協力隊の推進
その他	その他
9.少子化対策、子ども・子育て支援	10.地域づくり人材の育成・教育
○ 結婚・出産・子育て支援	○ 人材研修
○ 働き方改革	ふるさと教育
○ 子どもの貧困対策	地域と教育機関の連携(高校魅力化・域学連携等)
その他	その他
11.自治体経営イノベーション	12.シティプロモーション・地域PR
財政マネジメント(公共施設管理・公会計整備)	地域プランディング
○ 官民連携(PPP・PFI)	メディア活用策
自治体間連携	効果の把握・評価
○ 住民参加	その他
その他	

### 関連ホームページ

エコカレッジ(地方創生事業)	<a href="https://corp.eco-college.com/">https://corp.eco-college.com/</a>
専門書買取のエコカレッジ	<a href="https://eco-college.com/">https://eco-college.com/</a>

### 連絡先

メールアドレス	{アットマーク}		
---------	----------	--	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。